

※百分率は小数第二位で四捨五入するため、合計が100%にならない場合があります。



# 高齢者の交通事故発生状況

## 令和4年中

### 1 高齢者事故の発生状況

令和4年中の高齢者（65歳以上の人）が死傷した交通事故は、前年と比較して、発生件数及び負傷者数ともに1割以上減少し、また、死亡事故は18件18人（前年比－6件－6人）と2割以上減少した一方、全交通事故死者の約5割（48.6%）を占めました。

死傷者の状態別では、四輪車運転中が4割以上（614人中284人。46.3%）を占めて最も多く、歩行中も2割以上（136人。22.1%）を占めました。

また、歩行中死傷者は、その5割以上（136人中70人。51.5%）を死者・重傷者が占めました。

【高齢者事故の発生状況】

（令和4年中）

区 分	発生件数	死亡事故		負傷者数		
		件 数	死者数	重 傷	軽 傷	計
本 年	570	18	18	134	462	596
前 年	654	24	24	168	533	701
増 減	数	-84	-6	-34	-71	-105
減 率		-12.8	-25.0	-20.2	-13.3	-15.0

【状態別高齢死傷者数】

（令和4年中）

区 分	歩行中	四輪運転	四輪同乗	二輪乗車	自転車	計
死 者	10	2	3	0	3	18
構成率	55.6	11.1	16.7	0.0	16.7	100.0
重 傷 者	60	26	10	12	26	134
構成率	44.8	19.4	7.5	9.0	19.4	100.0
軽 傷 者	66	256	85	8	47	462
構成率	14.3	55.4	18.4	1.7	10.2	100.0
死 傷 者	136	284	98	20	76	614
構成率	22.1	46.3	16.0	3.3	12.4	100.0

### 2 高齢者事故の発生推移（基礎データ平成25年～令和4年）

全人身交通事故が10年間で58.2%減少（平成25年9,851件→令和4年4,117件。-5,734件）しているのに対し、高齢者事故は56.5%の減少（平成25年1,309件→令和4年570件。-739件）になっています。

令和4年は、全交通事故死者の約半数（37人中18人。48.6%）を高齢者が占め、本県の高齢化率（※28.6%）を上回りました。

※高齢化率＝人口に占める高齢者の割合（総務省資料 令和3年10月1日現在）



区 分	25年	26年	27年	28年	29年	30年	元年	2年	3年	4年	
高 齢 者	発生件数	1,309	1,293	1,313	1,245	1,211	1,081	930	742	654	570
	死者数	37	40	30	29	33	27	22	20	24	18
	負傷者	1,415	1,392	1,448	1,363	1,303	1,166	1,011	785	701	596
全 事 故	発生件数	9,851	9,142	8,624	7,986	7,491	6,815	5,675	4,487	4,286	4,117
	死者数	88	83	66	71	51	56	65	44	42	37
	負傷者	12,651	11,703	10,913	10,057	9,353	8,509	6,941	5,483	5,182	4,912
構 成 率	発生件数	13.3	14.1	15.2	15.6	16.2	15.9	16.4	16.5	15.3	13.8
	死者数	42.0	48.2	45.5	40.8	64.7	48.2	33.8	45.5	57.1	48.6
	負傷者	11.2	11.9	13.3	13.6	13.9	13.7	14.6	14.3	13.5	12.1

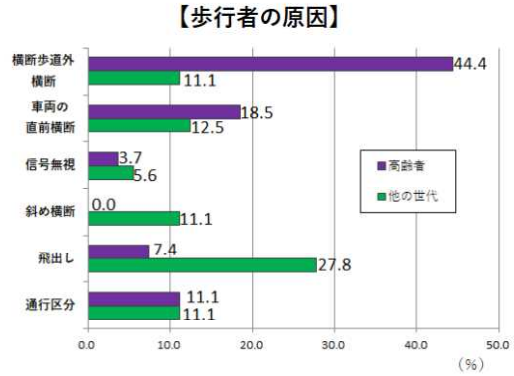
※百分率は小数第二位で四捨五入するため、合計が100%にならない場合があります。

### 3 高齢者事故の発生特徴等 (基礎データ令和4年中)

#### (1) 歩行中の構成率が他の世代よりも高い

高齢死傷者の状態別で最も多かったのは四輪車運転中 (614人中284人。46.3%) ですが、歩行中についても多く (136人。22.1%)、他の世代の歩行中死傷者 (4,335人中378人。8.7%) と比較すると高い構成率となっています。

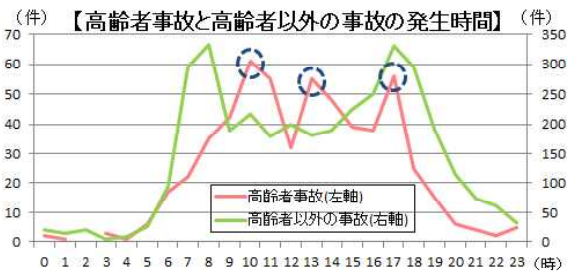
また、歩行中の高齢死傷者136人中27人 (19.9%) に何らかの原因が認められ、うち横断歩道外横断が44.4% (27人中12人) と高くなっています。



#### (2) 昼間の発生が多い

時間別では、10時台、13時台、17時台の発生が多くなりました。高齢者以外の事故は朝夕の通勤・通学時間帯に多発し、それ以外の日中時間は減少するのに対し、高齢者事故は、朝の通勤時間帯は少なく、日中時間帯と夕方の通勤・通学時間帯に発生のピークが見られます。

昼夜別では、80.5% (570件中459件) が昼間に発生しました。



### 4 過去10年間の高齢者事故の発生特徴等

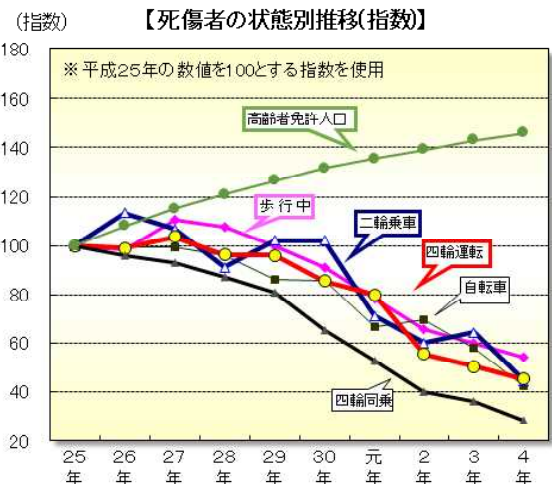
(基礎データ平成25年～令和4年)

#### (1) 状態別では増減しながら減少傾向

状態別で見る死傷者数は全体的に減少傾向にあります。

歩行中の死傷者数が、平成27年に増加しましたが、以後は減少を続けています。

二輪車乗車中の死傷者数についても、平成26年、平成29年、令和3年には前年比で増加しましたが、令和4年は前年対比-9人と減少しました。



#### (2) 高齢者事故の月別発生状況

過去10年間の高齢者事故を分析すると、10月以降に多発する傾向にあり、夕暮れ時 (日没前後各1時間) に事故が増加する傾向にあります。

死亡事故については、日没が早まる9月以降に高齢歩行者の事故が増加し、11月がピークとなっています。

